

令和6(2024)年度 学校経営計画 各学年重点目標と達成方法

		中学1年 2024年度重点目標											
重要度 〔4〕大変に重要 〔3〕やや重要 〔2〕あまり重要でない 〔1〕重要でない 達成度 〔4〕75～100% (ほぼ達成した) 〔3〕50～74% (まあまあ達成した) 〔2〕25～49% (あまり達成できなかつた) 〔1〕0～24% (ほとんど達成できていない)	項目1	① 「学力向上に向けて」											
		目標	自ら率先して学び、「考える力」を育成する。										
			基本的な学習習慣および生活サイクルを身につけ、自ら考え、行動し、さらなる向上心を抱くことのできる生徒を育てる。										
			グローバル人材育成のためにも実践的な英語力を中心に、国語による自己表現力、数学による論理的思考力を身につける。										
	項目2	達成方法	様々なことに対して「なぜ」を考えさせるように意識させる授業を行い、生徒自身が自ら答えを導けるような働きかけをしていく。										
			スコラ手帳（学習手帳）に記録する習慣をつけることにより、自身の学習習慣を定着化させて、意識的に学習に臨めるようにしていく。										
			朝学習において、英語・国語・数学の小テストを実施し、日々の積み重ねから基礎学力を定着させていく。										
		目標	② 「生きる力育成に向けて」										
			挨拶や正しい言葉遣いを心がけ、互いに過ごしやすい学校生活を送れるような環境を作れるような生徒を育成する。										
			自分の理想とする将来像をイメージし、その将来像に向かって様々なことに興味を持って挑戦できる生徒を育成する。										
	項目3	達成方法	自分だけではなく、周囲の人のことでも大切に思いやれるような道徳心を育む。										
			「明るく元気に爽やかに」を常に心がけ、相手のことを思いやりを持って過ごすことを常に声かけをしていく。常に、相手の立場に立つて過ごすことにより、日々の言葉遣いや態度はもちろんのこと、清掃活動や時間管理も意識できるように学年・学級活動を行っていく。										
			LHRや探求活動などの取り組みにおいて、自分のことだけではなく、広い視野をもって物事を見られるような仕組みづくりを行う。そのことにより、自分の将来像に向かって様々なことに興味関心を抱き、自分で挑戦していくことの大切さを知れるようにしていく。										
			道徳の授業を中心に、自分を知ることから「自分を大切にする」ことや、自分を取り巻く環境にいる人のことも大切にしていくことを学び、豊かな心を育成していく。										
項目1		項目2		項目3									
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度						
部署コード/平均		4.00	3.08	4.00	3.42	3.67	3.08						
1		4	3	4	3	3	3						
2		4	4	4	4	4	4						
3		4	3	4	4	3	3						
4		4	3	4	3	4	3						
5		4	2	4	2	3	2						
6		4	3	4	3	4	3						
7		4	2	4	3	4	4						
8		4	3	4	4	4	3						
9		4	3	4	3	3	2						
10		4	3	4	4	4	3						
11		4	4	4	4	4	4						
12		4	4	4	4	4	3						
<取組状況・次年度への課題など>													
①日々の学習習慣の定着においては、スコラ手帳を活用することによって中学校生活のリズムは概ねつけることができたと考えられる。小テストや朝学習を軸に基礎学力の定着を目指したが、その場の取り組みだけになってしまう生徒もいたため、知識を積み重ねる・思考力を育てるという観点においては来年度もう少し工夫が必要だと考える。													
②挨拶や言葉遣い、周囲への気遣いに対しては常に声かけを行ってきたため、生徒たちも意識はしている様子が見られた。そのため、一年間通じて「元気で明るく積極的」な姿勢は継続できたと思える。一方で、生徒が自分の将来について考える機会を設ける時間があまりとれなかつたので、来年度には、生徒が自分自身と向き合って将来を考えていける取り組みを考えて設けていきたい。													
③本校に入学してから新たにICTスキルを向上させるというよりは、日常的に学習ツールの一つとして活用させることを今年度は行ってきた。来年度以降の授業や学年活動においては、プレゼンテーションの機会を増やすだけではなく、ICTスキルを上げられるようなきっかけを作っていく。また、学年通信の発行、定期考査に関する情報といったものの発信をmanabaでは行い、保護者・生徒が閲覧できる状況を作ってきてはいたが、更新頻度はまだ十分ではないため、もう少し学校活動の様子がわかるような情報発信を行っていくことを来年度は心掛ける。													

令和6(2024)年度 学校経営計画 各学年重点目標と達成方法

		中学2年 2024年度重点目標																			
重要度 〔4〕大変に重要 〔3〕やや重要 〔2〕あまり重要でない 〔1〕重要でない	達成度 〔4〕75~100% (ほぼ達成した) 〔3〕50~74% (まあまあ達成した) 〔2〕25~49% (あまり達成できなかつた) 〔1〕0~24% (ほとんど達成できていない)	① 「学力向上に向けて」						② 「生きる力育成に向けて」													
		目標	「自学自習」の習慣化					③ 「学校教育環境整備と質向上に向けて」													
			検定（英検・数検）を取得する力の育成																		
			高校の進路選択で苦手な分野を諦める考えを持たせるのではなく、学びたい分野を増やす力につける																		
		達成方法	スコラ手帳や学習指導計画表を活用し、計画・振り返りができ、次に繋げられるように意識を持たせる。																		
			提出物などの日々の連絡、小テストなど学習の計画など、自己管理することにスコラ手帳の活用をさせる。																		
			検定取得のために、朝学習で1年次の復習問題や新聞を活用し読む力が身につくように取り組ませていく。																		
			進路実現及びグローバル化対応に必須である英語に重点を置き、教科と学年が連携しながら英語力向上を図る。																		
項目2		目標	「日常の五心」を無意識に心掛けることができ、社会人として生活するための基本的な作法を身につける。																		
			道徳教育、ピアサポート教育を通して自分および学校の一員としての誇りを持たせる。																		
		達成方法	自分自身を大切にするとともに、周囲にも寄り添うことのできる心を育てる。																		
			元気に明るく爽やかな挨拶をする、時間を意識した行動、整理整頓など、日常生活の基本的な取り組みに積極的に取り組ませる。																		
項目3		目標	日常生活の問題を考えさせ、自ら行動できるように話し合いをする機会を持たせる。また、学校周辺の美化など奉仕する機会を設け取り組ませる。																		
			自分の気持ちを誤解のないように言葉を選んで相手に伝わるように表現でき、「ありがとう」「ごめんなさい」という言葉を大切にし、口に出して気持ちを込めて伝えることができるよう、周囲への気遣いができるように常に声掛けをしていく。																		
		達成方法	ICTリテラシーを理解し、ICTを適切に活用する力を養う。																		
			manabaを活用して保護者と学校とが連携し、生徒の成長をともに見守れるような信頼関係を築く。																		
			情報モラルに関するガイダンスを実施し、ICT使用のルールを守り、SNSのリスク等も理解しながら、活用方法を考えさせる。																		
			学年通信・学級通信やお知らせなどでmanabaを積極的に活用し、活動報告・情報公開を進めていく。																		
		学校評価の実施後の改善に取り組む。																			
		項目1		項目2		項目3															
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度														
部署コード/平均		4.00	3.00	3.83	2.67	3.83	3.08														
1		4	3	4	3	4	3														
2		4	3	4	1	3	3														
3		4	4	4	3	3	3														
4		4	4	4	4	4	3														
5		4	3	4	3	4	2														
6		4	3	4	2	4	3														
7		4	2	4	2	4	4														
8		4	3	4	3	4	3														
9		4	4	4	4	4	4														
10		4	3	3	3	4	4														
11		4	2	4	2	4	2														
12		4	2	3	2	4	3														
		4	4	4	2	4	4														
<取組状況・次年度への課題など>																					
学力向上に向けて、主に基礎学力の定着のため、朝学習で国数英に取り組んだ。国語では百人一首を用いて知識の定着と書写を取り入れ文字を丁寧に書くことで集中力をつけること、数学では来年度の全員数検受験に向けた取り組みと授業の復習、英語は中1の復習を取り組ませた。また3教科以外に、昨年度に引き続き新聞記事を活用し、読解力の向上を図った。この取り組み方が2極化してしまったため、来年度は各自が目標を持ち、短時間の使い方を意識して取り組めるように、内容を考えていかたい。さらに課外活動へ参加させる体制が学年として出来ていなかったので今後個々の適性をみて声掛けをするなどをおこなっていく。																					
生きる育成に関わることでは、学年ガイダンスやピアサポートで、日常の生活のルールやマナー、人の関わり方、またSNSの活用の仕方について、集団生活で生きるために必要なことを指導してきたが、まだ社会性が身についておらず、規範意識が低い。中学最高学年として、意識を持った行動ができるように、粘り強く伝えて続けていく。また生徒達が自ら提案し行動できるよう導いていきたい。																					
学校教育環境整備の質の向上に向け、manabaや学年通信で行事について活動報告は行えたが、進路に関わる情報はあまり発信できなかった。進路通信の発行や卒業生の講演や体験等を取り入れ、今後の進路を意識した学習になるように取り組ませる。																					

令和6(2024)年度 学校経営計画 各学年重点目標と達成方法

＜取組状況・次年度への課題など＞

学力向上に関しては、昨年同様学年全体として英語力向上を目指し、朝学習でのキクシュ単語テスト以外にも、週1回WeblisStudyのライティング課題に取り組んできた。年度後半からはリスニングの課題も配信し、中3の目標級である英検準2級取得に向けて自学自習のサポートも行った。目標級準2級以上の取得状況は約9割(2月現在)である。次年年度は英検・TEAPの全員受検に向け、WeblisStudyを活用して自学自習の習慣をさらに定着させたい。その他、国語の語彙や読解の問題、長期休みには新書を読む課題にも学年全体で取り組んだ。次年度も工夫しながら取り組みを続けていきたい。学外の活動としては、学年全員で外部施設Kandoでの職業体験やニシクロ・UNHCRの取り組みの「届けよう、服のチカラ」プロジェクトの活動に参加したり、進路課題や希望者対象の企業訪問型の職業体験を実施したりとキャリア教育も充実させることができた。並行して、留学ガイドラン・トビタテ留学JAPANへの志望理由書や申請書のサポートも行った。次年度以降も海外留学を含む希望の進路に向け、生徒の企画力・実行力の構築へと繋げていきたい。生きる力の育成に関しては、3年目となる礼法・ピアサポートだけでなく、薬物乱用防止教室・情報モラル教室・模擬調停での学びを活かしたクラス運営を心がけてきた。心身ともに安全に学校生活を送るため、身につけるべき社会性・協調性の重要性を丁寧に説明し、中学最高学年としての立場を理解させた上で、各学校行事での活躍を促してきた。次年度以降も、常に後輩の上に目をとどけよう意識で取り組んでいきたい。

令和6(2024)年度 学校経営計画 各学年重点目標と達成方法

高校1年 2024年度重点目標																
重要度 〔4〕大変に重要 〔3〕やや重要 〔2〕あまり重要でない 〔1〕重要でない 達成度 〔4〕75～100% (ほぼ達成した) 〔3〕50～74% (まあまあ達成した) 〔2〕25～49% (あまり達成できなかつた) 〔1〕0～24% (ほとんど達成できていない)	① 「学力向上に向けて」															
	項目1	目標 達成方法	進路実現のために必要な学力を養う													
			将来を見据えて社会性・自立心を身に着けるための学習を実施する													
			5教科の偏りを減らし、バランスよく基礎学力を身に着ける													
			与えられた課題をこなすことや、授業・講習に参加することで満足してしまうことなく、自らに課題を設定し解決するための学習を意識する。学校で自学自習の時間を増やすため、朝学習・放課後延長学習など学習機会の提供に努める。大学受験への準備段階として、小手先ではなく応用可能な基礎学力を着実に身に着ける。													
			自らが選択する大学・学部も含めて「なぜ」を追究し考察する力を養えるよう、キャリア教育や社会への関心を意識させる。													
	項目2	目標 達成方法	進路を決定するのではなく、探す期間としてSTEP2の位置づけを意識させる。													
			② 「生きる力育成に向けて」													
			目標	他者を理解する力と社会への関心を育む												
				自己理解、自己表現する力を涵養する												
			達成方法	個々に進路や今やるべきことについて悩み、考える時期だからこそ、周囲への配慮や理解が重要となる。他者に対して想像力を働かせることで、学校内だけでなく社会において必要な視野の広さを身に着ける。												
				自己の興味・関心と社会で起きている諸問題とを結びつけることで、将来自分がどのような道で社会に貢献できるかを考えさせる。												
部署コード/平均	項目3	目標 達成方法	③ 「学校教育環境整備と質向上に向けて」													
			生徒・保護者と緊密な連携を図る													
			ネットリテラシーの習熟を目指す													
			学年通信や各種ガイダンスの実施により、進路関係の情報や学校生活についての情報を定期的に公開し、細やかに連携をとる。一方で、自立を促すために過剰な保護を避け、生徒自ら必要な情報をまとめる機会を増やしていく。													
											SNSの危険性や功罪を理解し、「使わせない」ための指導ではなく「正しく使う」ためのICT教育を実践する。					
	項目1		項目2		項目3											
	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度										
	4.00	3.00	3.91	3.27	3.73	3.18										
1	4	3	4	4	4	2										
2	4	3	4	3	4	4										
3	4	2	4	2	3	3										
4	4	3	3	3	3	3										
5	4	2	4	3	4	2										
6	4	4	4	4	4	4										
7	4	3	4	3	4	3										
8	4	3	4	4	3	4										
9	4	3	4	3	4	3										
10	4	3	4	3	4	3										
11	4	4	4	4	4	4										
12																
<取組状況・次年度への課題など>																
項目1、学力向上については、次年度から文系も数学必修化という大きな変化が始まる学年であることから、バランスを重視した指導をしてきた。結果として、1月模試では三教科とも平均偏差値の上昇を実現できたが、その要因となったのがCDゾーンの減少であり、下位層の生徒が前向きに自学自習に励む姿勢が結果に反映された。STEP3での課題として、英語に特化して学年全体で強化していくことと、中間～上位層の生徒を現状に留めず引き上げていくことを重視する。そのために、まずは普段の授業が一番であることは論を俟たないが、講習や演習型授業も活用して、全員が一般でも勝負できるよう学力の獲得を目指す。																
項目2、生きる力の育成と教育環境の整備については、他者への配慮や思いやりに関しては多くの生徒が備えており、指導に困る場面が少なかった。軽微な違反についてはその都度指導していくことで大きなトラブルになることを未然に防ぐ。環境を整えた上で、自己理解を深める場面を増やしていく。具体的には、探究・GIS・GST・その他各種学年プログラムを通じて、ただ行きたい大学や受けやすい学部を決めるということではなく、解決すべき社会問題と自分ができることがやるべきことなどを結び付けて考えられる機会を作っていく。それにより、総合型や公募推薦などで大学側が求める人物と自分の学びたいことを合致させることができ、受験のためだけではない志望理由書を作りあげることが可能となる。																

令和6(2024)年度 学校経営計画 各学年重点目標と達成方法

		高校2年 2024年度重点目標																	
重要度 〔4〕大変に重要 〔3〕やや重要 〔2〕あまり重要でない 〔1〕重要でない	達成度 〔4〕75~100% (ほぼ達成した) 〔3〕50~74% (まあまあ達成した) 〔2〕25~49% (あまり達成できなかつた) 〔1〕0~24% (ほとんど達成できていない)	① 「学力向上に向けて」																	
		目標	生徒一人一人の進路モチベーションを向上させ、偏差値を2年終了後までに各教科+5を目標とする。																
			生徒自ら積極的に学習に取り組み、学習習慣・学習スタイルを確立する。																
		達成方法	模試分析結果を学年で共有し、生徒個々の弱点を把握し、次の模試に備えさせる。																
			集中して学習する習慣を確立させるための自学自習環境を提供する。																
		目標	学年独自の進路学習冊子を夏休み前までに発行し、学習意識の向上につなげるように指導する。																
			国公立、早・慶・上・理、GMARCH、AO対策などの目的別ガイダンスを実施する。																
		達成方法	探求授業などで論文作成や発表・プレゼンテーションを行い、総合型選抜などでも対応できるように備えさせる。																
			② 「生きる力育成に向けて」																
部署コード／平均		目標	集団における自己責任能力の育成と多角的思考力の向上を目指す。																
			GSTプログラムを実施することにより、日本の常識が必ずしも世界の常識ではないことに気づかせ、国際的視野も持てるように体験させる。																
		達成方法	メリハリのある生活習慣の確立（自己管理能力の育成）する。																
			「常に前向きな思考を持つこと」が、2年後の進路決定や日常生活にプラスの影響を与え、「悲観的な発言をすること」はマイナスの影響を与えることを再度理解させる。																
		目標	GSTの振り返りや、多方面の生徒のプレゼンテーションを聞くことなどにより、3方向のそれぞれの生徒が感じたことなどをクラス・学年単位で共有するようにLHRなどを工夫する。																
			国際社会で通用する人材の育成のため、積極的にキャリア実現のための講習会の参加などを薦める。																
		達成方法	③ 「学校教育環境整備と質向上に向けて」																
			学年の活動や進路指導に関する保護者の理解と協力をいただけるように情報を提供していく。																
		目標	生徒の放課後延長学習や講習を充実させる。																
			年3回の保護者会などを通して、本校の進路指導方針、及び現在の大学入試のあり方について具体的に提示する。																
		達成方法	2025年新カリキュラム入試（現高校3年）の各大学情報を早く得ることによって、具体的な対策を提示する。																
		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード／平均		4.00	3.27	3.64	3.18	3.82	3.00												
1		4	3	3	3	3	2												
2		4	3	4	3	4	3												
3		4	3	4	3	4	4												
4		4	3	3	3	4	3												
5		4	4	4	3	4	3												
6		4	3	4	3	4	2												
7		4	3	4	3	4	3												
8		4	3	4	3	4	2												
9		4	4	4	4	3	4												
10		4	3	3	3	4	3												
11		4	4	3	4	4	4												
12																			
<取組状況・次年度への課題など>																			
【項目1】 達成方法として書いてある5項目については、すべて実施したが、ガイダンスに参加率や放課後延長学習の参加率などを振り返ってみると、学年団の生徒への呼びかけや、運用方法に関して、もっと工夫する必要があったように思われる。次年度は、様々な受験形態を利用する生徒への個別指導が重要であり、時間をかける必要性がある。しかし、学年全員の生徒の学習のモチベーションを向上させるために必要な企画はどんどん計画してきたと考えている。																			
【項目2】 生徒の自己管理能力の育成に問うては、GISなどを通じてかなり向上したように思える。メリハリのある生活に関しては、今後も引き継いでいく課題の一つである。																			
【項目3】 進路通信や学年独自の進路・学習アドバイス冊子の発行、生徒への面接などを通じて、生徒・保護者との情報共有には意識を持って取り組んだ。しかし、受験方法の多様化や共通テストの新カリキュラム入試など今年度入試（現高校3年）の結果後の分析が必要なものも多くあり、情報がでて次第、保護者との情報共有をさらに積極的に行いたいと考えている。																			

令和6(2024)年度 学校経営計画 各学年重点目標と達成方法

		高校3年 2024年度重点目標														
重要度 〔4〕大変に重要 〔3〕やや重要 〔2〕あまり重要でない 〔1〕重要でない	達成度 〔4〕75~100% (ほぼ達成した) 〔3〕50~74% (まあまあ達成した) 〔2〕25~49% (あまり達成できなかつた) 〔1〕0~24% (ほとんど達成できていない)	項目1	目標	(1)高校3年生における学習では「深い学び」を意識することで、新しい入試制度にも対応できる力をつけ、生徒の進路目標を実現する。												
				(2)大学入試のサポートは学年だけでなく、学校全体で受験生を支えていく体制を目指しています。												
		項目2	目標	この学年から大学入試は新しい形式となり、国公立では「情報」が受験科目として必須となり、私立大学でも3科目目として採用する学校も出てきています。また共通テストではそれぞれの科目で「探究」が表面に出てきているので、単純な暗記ではなく、深く考えることのできる人材育成を目指したい。資料を読み取り、資料から言えることを見極め、自分の考えを組み立てられるような授業の工夫を続けて行くとともに、短い対面授業の期間ではあるが、主体的に学び、それを発信できるように授業を通して働きかけてていきたい。												
				生徒の進路実現のために、学年の情報を学年教員や学年の授業担当教員だけでなく、学校全体で共有し、生徒を支えていくようにする。またグローバルセンターとの連携を進め、外部検定利用入試や海外入試なども積極的にさせてていきたい。												
		項目3	目標	② 「生きる力育成に向けて」												
				(1) 高校3年生として学校の模範となる生徒を育成する。												
				(2) 成人としてインターネットやSNS等との適切な付き合い方も指導し、生徒が受験勉強中も卒業後も適切な使い方ができるようになることを目指す。												
		項目3	目標	他者に対する思いやり、モラル、規範意識等については高校1年生から指導し続けてきた。しかし、受験期になるとこれらがループになる生徒も出やすい。そこで受験学年は特別なものではないということを伝えながら、生徒指導方針に準拠した指導を変わらず続けていく。												
				インターネットやSNSをうまく使える生徒とそうでない生徒にまだまだ分かれている。情報の授業および学年としての情報モラル教育を通して、ネットワークとのうまい付き合い方を自分で考え、卒業後も適切な使い方ができるようになるように指導する。												
				③ 「学校教育環境整備と質向上に向けて」												
		項目3	目標	(1) 保護者向けのガイダンスに関して、対面指導とmanabaなどを使用した情報発信を円滑に進めていく。特に、進路面ではガイダンスや『進路部通信』を充実させ、保護者と情報を共有していく。												
				(2) 高校3年間の取り組みを整理し、次年度以後の学校教育環境にも提案をしていく。												
				対面での保護者会は限られているので、manabaを通じた情報発信も充実させていく。今年度はどうしても個別対応が増えるので、全体での説明、推薦等該当者のみへの説明、個人への説明の方法を分けた上で、進路主幹・学年主任・学年進路担当・担任等発信方法を工夫していく。												
		歴代の高校3年生のデータの蓄積を生かしつつ、この学年の取り組みや保護者アンケートの結果等も生かして、学年としての取り組みも次の学年の取り組みにも活かせるようにまとめていく。														
		項目1		項目2		項目3										
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度									
部署コード/平均		3.90	3.20	4.00	3.20	3.70	3.50									
1		4	4	4	3	4	4									
2		4	3	4	3	3	3									
3		4	4	4	3	4	3									
4		4	3	4	3	4	4									
5		4	3	4	3	3	3									
6		3	2	4	2	4	4									
7		4	3	4	4	4	4									
8		4	4	4	4	3	3									
9		4	3	4	4	4	3									
10		4	3	4	3	4	4									
11																
12																

＜取組状況・次年度への課題など＞

カリキュラム全面移行の年となり、この数年の傾向とともに総合型選抜で希望の進路を得ようとするものと抑えとして利用をするものが同時に出現する状況が顕著となった。学校推薦型（指定校・公募）の数も増え、特に東洋大学のような基礎学力テスト型のような併願も可能な公募型の出現は、次年度にも大きな影響を与えると思われる。資料を読み解くタイプの問題が全教科で出されている。全教科で語学力としての国語・英語の教育、グラフや資料の読み方といった練習を行っていく必要がある。根本的な考える力の教育は、教科の学習だけではなく、生きる力の育成にも重要な役割を持つ。どうしてそうなるのかといった根本的な問いをもっと大事にしていくべきである。他者に対する思いやりがモラルや規範意識となることを、考えられた生徒はこの世の中で生きていくために必要な能力を身につけてくれたと思う。この先の進路でも自分の進む道を切り開いていくつて欲しい。高校3年生では『学年通信』と『進路通信』を分けたことで、その時に必要な情報の伝達はスムーズになったと考えています。保護者の方々ともっと結びつきの強い学年にしたいと思っていましたが力不足の感が否めません。また受験に際しては個別に聞きにいく生徒が増え、他学年の先生や非常勤の先生方のお力をたくさん頂戴しました。負担を大きくかけてしまった先生方にはお詫びと感謝を捧げたいと思います。